



# 上加賀田支部

## 「まなだけけ会」だより

平成29年3月31日発行

第7号

### 《まなだけけ会の一年と一言》

まなだけけ会 副会長 富田哲夫

まなだけけ会の活動に深いご理解と格別のご支援、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は熊本をはじめ各地で大きな地震が起き、甚大な被害が出ました。また、北海道や東北地方でも、台風や大雨の影響で野菜等が高騰しました。高齢化に伴い各地で運転中にアクセルとブレーキを間違えての事故、逆走しての事故も多くありました。一方、車は生活上必要としている方もいるので……

上加賀田地区でも少子高齢化が進み、まなだけけ会としても、将来を担う子供たち・高齢者等のため、地区の皆様とボランティアの方々と一緒に、安心・安全な地区を目指し、様々な活動【①花いっぱい ②リサイクル ③田植え・収穫体験・若草餅つき・敬老会への支援・視察研修等の寄り合い・あいさつ運動等々】を行ってまいりました。また、初めての試みでしたが秋祭り（芋煮会等）は大変好評でした。

今後においても、住み慣れた地域の維持・発展のためには、現在の地域ぐるみでの体制を維持することが重要であります。

一方、ボランティア等の後継者が懸念されるところでもあります。本会の趣旨である誰もが安心して暮らすことを実現するためには、公的サービスだけでなく「地域一人ひとりの努力や協力」が欠かせません。自助・互助・共助・公助の四つの役割を分担することが基本であり、当地区においては、この様なスタンスで進展していると考えております。

結びに、まなだけけ会のご周知のとおり、行政区・公民館・各種団体等からの支援・連携により、各種行事を展開しております。多くの方が参加することに大きな意義があり、老いも若きも、是非参加して頂くようお願い申し上げます。

### 《寄り合い・あいさつ部会活

会長 桜井 みよ子

三世交代の事業、まなだけけ会の下に平成十六年の発足から早、三年目を迎えました。

地域の皆様、子供会、ボランティアの皆様、毎回の事業に協力頂き感謝致します。

一年生も学校になれた五月、里山に新緑又、小川の水温む頃、最初の行事田植えが始まりました。子ども達が泥んこになりながら慣れない手つきで苗を植え、畦道を歩き回り新緑に囲まれ、お昼を頂きました。

秋にはまだ残暑が残る中、稲を刈りますが今年は雨の為中止になりました。

十一月下旬には、初めての芋煮会、消防団の若い父さん達の見事な包丁さばき、男料理の実感、寒い中大鍋に沢山出来上がり、お腹一杯頂きました。

まだ、正月気分の残る中、熱々に蒸した餅米をワッショイの声と共に始まり、つきたての餅を頂きました。又、赤と白のまゆ玉を枝にならせ今年の豊作を願い、枝にならせたまゆ玉を土産に持って帰りました。

最後の行事として日帰り研修を行いました。今年はずくば・守谷方面にしました。

「産業技術総合研究所つくばセンター」の門をくぐり、敷地の広さに圧倒され、目的の地質標本館では研究員さんの説明、その隣のサイエンススクエアの見学、短い時間でしたが大変興味のある話で有意義な時間を過ごす事が出来ました。

午後は、守谷のアサヒビール工場の見学、機械化された近代的な工場で見張るばかり、沢山のビールを試飲させて頂き楽しい雰囲気の中、帰路につきました。

地域の皆様が一体となって取り組んだ事業、上加賀田の連帯感を実感させられた一年でした。

今後とも地域の福祉活動に努力して参りますので、よろしくお願い致します。



# 《一年を振り返って》

子供会会長 田中 直貴

今期の子供会は児童数19名(13戸で)スタートし、転入の方を含め合計21名の子供達を中心に恒例の田植えや餅つきといった交流会に参加させて頂きました。あいにくの天候不良で稲刈りが中止になってしまったのは残念でしたが、今年度は3世代交流秋祭りの開催第一回目ということで、子供達の育成の場を提供して頂き、大変ありがとうございました。

年々進行する少子化の問題に対し「子供は皆で育てる」という意識を共有できる地域交流の場として新たな試みを提案して下さったまなだけ会・組織運営委員会の皆様方には今後とも協力し合い、より良い関係を築いていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

